今年度の取り組みとしては、まず一つ目に集中改革プランの進捗状況のチェックがあります。これは昨年から引き続きやっていかなくてはならないことと認識しています。これについては、毎回事務局から提示された項目を、行革推進委員会で検討していくことになります。

もう一つは、昨年この委員会でとりまとめた提言書に基づいて、既に改革のアクションが始まっていますので、この提言に対して現在取り組んでいる状況を検証していくことが大きな柱になります。

そして三つ目になるといっていいかと思いますが、提言の中で一番大きな項目として、「行政評価」の仕組みを取り入れて、継続的に改革を進める行政にしていこうということを盛り込みましたので、今年度は、その仕組みを具体的に構築していくことになっていきます。

基本的にその仕組みをつくる部分については、町の行財政改革推進室を中心として私も参加しながら案をつくっていきたいと思っています。システム構築にあたっては、色々な段階で委員会の意見も採り入れながら進めていくことになろうかと思います。

今年度は、そういう大きな仕事がありますし、また取り組むべき重点項目についても、委員会で出てくるようでしたら、そちらも検討していくことになります。限られた委員会回数の中で、かなり大事な問題を扱わなくてはならない非常に重要な一年になると思っています。

今年3月に提言書を提出して3ヵ月くらい経つわけですが、その間、行政改革を考える上で重要な、世間を騒がせた事件が二つあったと思います。

一つは、後期高齢者医療の問題。川根本町の場合は、この前の住民台帳の統計でも判明しましたが、県内での高齢化率が3年間トップということでした。

今後の方向性として、その問題に対処できる地域経営を確立することが必要です。県内のどこの自治体よりも高齢化率が進んでいるわけですから、最先端の政策をつくらなくてはいけません。他の自治体の真似をしていては駄目で、その先を行かなくてはならないということですから、これは真剣に取り組むべきところだと思います。

それから、もう一つはメディアが大騒ぎしています大阪府の問題です。橋下知事が登場して橋下プロジェクトチームの中で行政改革を断行して、ばっさりカットして、それがメディアに報道され、様々な議論を呼んでいます。今の橋下知事のやり方をみますと「乱暴でひどい」という見方をされることもありますが、今まで大阪府が見せかけの行政改革をやってきたツケが回ってきたのかなとも思います。府民が「大阪府庁はだらけている」、「ここでゼロクリアして仕切り直しした方がいいんじゃないか」ということを支持してしまうくらい病んでいた面はあるかと思います。

本町でも、「橋下知事」が出てきて、ばっさりカットするということにならないように、提言書の冒頭にも記しましたが、何のためにその事業や施策があるのかということを、しっかり認識し、地に足がついた「まちづくりのための行政改革」をやっていかなくてはならないなと痛感しているところです。

行革大綱の3年目にあたる今年の行政改革では、「行政評価」の仕組みを構築するということで、かなり大きな仕事になっていきますが、いわゆる評価シートをつくって、見せかけの数字をつくって「お茶を濁す」というような評価をやっていても、結局、そのしわ寄せは川根本町に跳ね返ってくると思います。

本当の意味での改革をしなければいけないと痛感していますし、そういう意識を持って本年度、取り組んでいければと思っています。

見せかけの数字ではない 本当の意味での行革を進めていきたい

片山泰輔川根本町行政改革推進委員長
東京都出身。静岡文化芸術大学准教授。専門は文化政策や財政・公共経済など。県文化振興基本条例制定に尽力。浜松市文化振興ビジョン策定委員長。

片山泰輔

Taisuke Katayama

川根本町行政改革推進委員長

高齢化率が県内で最も高い川根本町だからこそ他の市町の真似ではない「最先端の政策」をつくっていかなければならない――

川根本町行政改革推進委員会　（敬称略）

委員長	片山泰輔	委員	髙木善一
副委員長	和田邦重	委員	南 伸次
委員	相藤令治	委員	望月静馬
委員	太田侑孝	委員	森岡朱雅子
委員	佐藤公敏	委員	山内まゆみ